

なちの底力!

元気企業を訪ねて

□下□

ケーイーシー (生駒市)

「KECと志学館が結婚した」。昨年10月14日に奈良ホテルで世界初の「企業結婚式」が行われた。KECゼミナールなどを展開する「株式会社ケーイーシー」と志学館を運営する「株式会社アンドリュウ」が同年10月1日に経営統合し、新生「株式会社ケーイーシー」(生駒市)が誕生したのだ。ケーイーシーが県北部、志学館は県南部が地盤で、相互補完関係があり、経営統合によって約40教場、生徒数約5500人、専任講師1000人を含む従業員600人となった。

「企業結婚式」ではKEC、志学館それぞれのキャラクター「ケックくん」(KEC)、「しがつちゃん」(志学館)が登場。田野瀬良太郎・大和大学学長が祝辞を述べ、多数の来賓が参加した。両塾の歩みを振り返り、全社員によるダンスが披露された。経営統合の狙いについて、小椋義則社長(36)は「111が3にも4にもなる夫婦になる。多くの子どもたちの未来を見据えた教育を進めたい」と話す。

同社は、小椋社長の父俊男さんが1977年に開校した「KEC進学道場・生駒教室」がはじまり。生駒市のアパートの一室だった。詰め込み教育に疑問を呈し、「人間大事の教育」を理念に掲げた。81年西大寺教室を開校、82年法人設立。83年にはKECゼミナールとなり、奈良(85年)、郡山(87年)、桜井(89年)、高の原(92年)、学園前(93年)と順次、教室が増えていった。志学館との経営統合で、県全体に教室が広がった。KECとは、Key(鍵)/Education(教育)、Communication(コミュニケーション)の頭文字を取ったもので、教育とコミュニケーションが鍵を握るという意味が込められている。

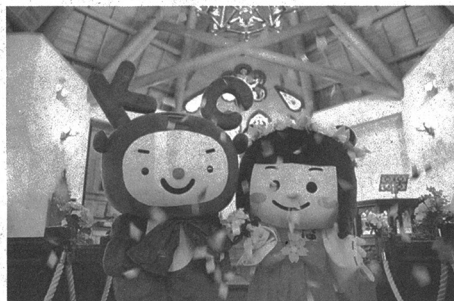
小椋社長は大学卒業後に就職情報会社「マイナビ」に就職。約10年前にケーイーシーに移った。マイナビで働いていただけに、受験勉強だけでなく、社会に出るから必要なコミュニケーション



小椋義則社長

未来を見据えた教育を

力育成を重視している。講師が一方的に解き方を解説するのではなく、生徒の意見を引き出す双方向の参加型授業を展開。小学生の授業カリキュラムでは「表現」という教科を設け、ディベートなどを積極的に授業の中に取り入れている。また、分かったりやすさを徹底的に追求したオリジナルの指導システム「学VIEW」を導入し、すべての教室にプロジェクターを常設。板書の時間を可能な限り少なくすることで、学習効率を上げ、生徒の成績アップにつながっている。



学習塾は、従業員の離職率が高いのが普通だ。引き抜きなどで業界内の雇用流動性が高い面もあり、一般企業との比較は難しいが、休日や夜からの授業で仕事で深夜に及ぶなど厳しい労働条件が影響している。しかし、同社の離職率は低い。小椋社長が研修制度を充実させたのが効果をあげている。入社前、社員合宿、大手人事コンサルティング会社による研修のほか、教科、営業、教室長育成といった目標別の研修を実施している。また、労働低減のために、遅くとも午後1時には、帰社できる



●奈良ホテルで開かれたKECと志学館の結婚式。それぞれのキャラクター「ケックくん」(左、KEC)と「しがつちゃん」(志学館)が誓いを交わした。全ての教室にプロジェクターを常設。板書の時間を可能な限り少なくして学習効率を上げ、生徒の成績アップにつなげている「ケーイーシー」提供

ようにした。社員交流イベントも充実。1学期に2回の「飲みみテーション制度」は、費用は会社が負担し、ランチ会でも構わない。家族も参加するバーベキューパーティー、スポーツ大会、生徒も一緒にハロウィーン、クリスマスイベントもある。ほかに、社員からの積極的な企画立案を促す「言いだしっぺ制度」、社長に直接意見を伝える「目安箱」、ユニバーサル・スタジオ・ジャパン(USJ)でホスピタリティ(心からのおもてなし)を学び仕事に生かすため、チケット代を負担する「USJ手当」などユニークな制度を導入している。

同社は独自の取り組みとして、生徒指導、社員制度の行動指針「G-PDCA」サイクルを打ち出している。Goal(目標設定)、Plan(計画立案)、Do(行動・実行)、Check(検証・確認)、Act(課題改善)。自分で立てた目標を自らの力でやりきること、で「本物の自信」がつくと考えている。小椋社長は生徒たちには、10年、20年先に社会人になった時に、塾で学んだ経験が役立つ教育を施したい。企業としては社員が生き生きと働ける会社を創りたい」と話している。

【編集委員・中西満】